

市内各登山口に 登山者カード入れを整備

日光市山岳遭難防止対策協議会では、日光の山々から遭難事故をなくそうと、このほど「登山者カード入れ」を主な登山口に整備することになりました。

これまでに、登山者カード入れが設置されていたのは、湯元の白根山登山口と女峯山登山口の二荒山神社わきの二カ所だけでしたが、こんど設置することになったのは、①湯元バス終点苑地(白根山)②光徳(太郎山)③安良沢浄水場付近(女峯・大真名子山)④滝尾神社付近(雲竜溪谷)⑤霧降高原ハウス前(赤難山・女峰山)⑥東武日光駅構内の六カ所です。これで日

光市内の登山口の大半で、カード記入ができるようになり、記入率もぐんと良くなるだろうと期待されています。

登山者カードは、遭難が起きた場合、同時に入山している他のパーティを調べ、遭難者の動向を調べることによって、より早く、よりせまい範囲の捜索ができることになり、救出に大きい効果をあげることができそうです。

こんど作ったカード入れは、トタン屋根つき、白ペンキ仕上げ、筆記用棚つきのドラックスなもので、風雪にも十分耐えられ、またカードにも略図を刷り込むなど工夫がされています。

10月1日 住宅統計調査に



ご協力ください

地域別の水準や、世帯の種類別による格差を明らかにし、今後の住宅政策の資料とするものです。

市内で約一、〇〇〇世帯を抽出調査

総理府統計局では、十月一日現在で全国いっせいに第五回住宅統計調査を行なうことになりました。

この調査は、いちじるしく変化している日本の住居の現状をとらえ、都市や農村など住宅の

この調査では全国で約四〇〇万の世帯を調査しますが、本市では、統計局が国勢調査の調査区を基に選んだ十七の調査区に居住する約一、〇〇〇世帯を調査します。

調査の地域

- ①丸美附近から奥地山岳部②細尾町中東部③新細尾町六条④清

全国下水道促進デー 9月10日

下水道建設をすすめて
住みよい町にしよう。
下水道のできた湯元、中宮祠は、
早く水洗化をしましょう。

- 滝町2丁目中部⑤安良沢町3郡5郡⑥同14郡15郡⑦精銅所病院附近⑧久次良町北部⑨中鉢石町北部⑩下鉢石町西部⑪御幸町東南部⑫稲荷町1丁目中部⑬松原町中西部⑭相生町東南部⑮所野南部⑯山久保⑰宮小来川北部

文化財めぐり

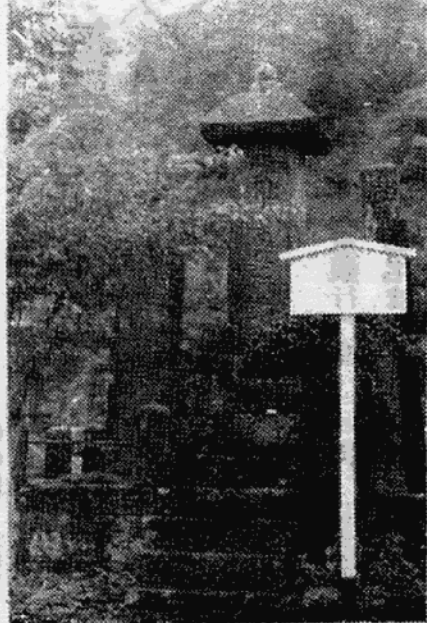
稲荷川水難供養塔 一基

所在地 石屋町竜蔵寺宇津野墓地

由来と現況 「徳川実紀」によると、寛文二年(一六六二)の六月はじめ、関東から東海道まで連日風雨が吹き荒れ、日光ではその十三日夜、稲荷川の水源七滝辺に、古くからたたえられていた湖水が崩壊して大洪水がおこり、本宮神社の東側稲荷川筋一帯の町並が、一瞬にして濁流に呑まれる大惨事がおこった。古図をみると、当時稲荷川は山内側へ寄って流れており、その向側に二筋の町並があつて稲荷川町と称したが、このときは鉢石裏町、西河原町、萩垣面、鍛冶町等も濁流に洗われあわれ一四八人が溺死した。同年十二月、幕府はこれら

罹災者の移転するもの二百人に金三兩宛を頒ち、ここに稲荷町は現在地に移り俗に出町とも称した。因みに今日の日光東西両町は、寛永十七年(一六四〇)に行なわれた山内の町家の強制移転と、この稲荷町の移転とが基礎になつてできたものである。

この水難供養の石塔は、一は高さおよそ二米九〇釐、正面に南無阿弥陀仏の大字を彫り、二は高さおよそ二米、正面に同じく名号を、側面に彫った法名と人名を彫って往時を偲ばせ、背面に寛文三年九月の年紀と梅原宗意以下七名の名を録している。



解説
日光市文化財保護審議委員会